

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783



酪農：破碎機による飼料用米の加工・給与



肉用牛：草地の共同管理による自給粗飼料の確保



養豚：食品残さと肉豚用飼料の混合給与

配合飼料価格の高騰に対応した生産コスト低減対策 ▶ (関連記事5ページ)

目次

- ◆平成25年度定時総会の開催結果(2)
- ◆生産段階における自衛防疫の強化と農場HACCP構築を支援します！
～平成25年度家畜衛生関係事業から～(3)
- ◆平成24年度コンサル実施結果の概要と配合飼料価格の高騰に対応した生産コスト低減対策について(4)
- ◆にいがた和牛推進協議会「平成25年度事業実施計画」決まる(6)
- ◆声のコーナー(7)
「就農9年目を迎えて」
酪農経営：胎内市 緒形 正芳
「諦めない養豚をしたい」
養豚経営：十日町市 平野 菜菜子
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより(8)
佐渡市：株式会社 佐渡乳業
- ◆畜産物市況(8)
- ◆編集後記(8)

平成25年度定時総会の開催結果

平成25年度定時総会を新潟市西区の「全農にいがた県本部ビル」において5月30日に開催しましたので、議事の経過と結果の概要についてお知らせします。

1 議事の経過

(1) 出席会員数の報告

事務局から正会員66名中、本人出席24名、書面出席42名の出席により、平成25年度定時総会が成立することを報告した。

(2) 今井会長挨拶

出席会員と来賓の新潟県農林水産部長に謝意を表し、畜産を取り巻く厳しい情勢の中で、畜産経営安定対策等の諸事業を計画どおり円滑に実施できたこと、収支決算では370万円余りの赤字となったが財政健全化対策の収支見通しに対しては90万円赤字を圧縮できたこと、さらに提出議案について慎重審議をお願いしたい等挨拶を行った。

(3) 目黒 新潟県農林水産部長祝辞

当協会が畜産振興や畜産経営の発展に尽力していることに対し謝意を述べ、畜産情勢は飼料価格の高騰により厳しい状況であるが、新潟県としては引き続き、飼料自給率向上に向けた取り組み、家畜伝染病が万一発生した場合の備えを継続し、さらに、消費者が求めている安全安心な畜産物の提供と畜産経営の安定化に向けた施策に力を注いでいく考えを述べ、最後に当協会が公益社団法人としての役割を果たし、引き続き本県の畜産振興に尽力していくことに期待するとの祝辞を述べた。



(祝辞を述べる目黒県農林水産部長)

(4) 議長及び議事録署名人の選任

定款の規定に基づき今井会長が議長に就任し、役員以外の出席会員の中から議事録署名人2名を選任した。

(5) 提出議案

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算報告について

第2号議案 理事の補欠選任について
附帯決議

2 結果の概要

(1) 第1号議案「平成24年度事業報告及び収支決算報告について」

- ・ 鶴巻専務理事が公益目的事業5事業とその他事業3事業の実施概要及び決算の概要について説明した（主なものは次のとおり）。
- ・ 肉用子牛生産者補給金制度で補給金8,895万円、肉用牛肥育経営安定特別対策事業で補填金3億7,915万円を交付する等、国の畜産経営安定対策事業の的確な実施に努めた。
- ・ 優秀畜産表彰事業では、優れた経営実績を上げている4事例を表彰し、全国発表会に推薦した関克史氏（肉用牛経営）が農林水産大臣賞を受賞した。
- ・ 新事業となった家畜防疫互助基金支援事業では畜産経営体への加入促進に努め、牛で8割、豚で6割の生産者と契約を締結し、畜産安心ブランド生産農場認定事業では新たに18農場を認定し、認定農場は241農場（認定割合39%）となった。
- ・ 期末の正味財産合計額は1,059,821千円で、肉用子牛生産者積立金及び肉用牛経営安定基金が増加したことにより期首対比で53,074千円、予算対比で28,806千円増加した。
- ・ 期末の一般正味財産額は85,050千円で期首対比では3,778千円減少した。
- ・ 澤口監事代表が事業報告書及び計算書類並びにこれらの附属明細書の内容は真実である等、監査の意見を述べ、採決の結果、第1号議案を原案どおり決議した。

(2) 第2号議案「理事の補欠選任について」

鶴巻専務理事が議案内容を説明し、会員から推薦のあった阿部 悟氏を理事に選任し、定時総会終了後に開催した第2回理事会において同氏を専務理事に選定した。

生産段階における自衛防疫の強化と農場HACCP構築を支援します！

～ 平成25年度家畜衛生関係事業から ～

当協会は、家畜衛生関係の公益目的事業として、家畜自衛防疫対策及び安全・安心な畜産物の提供対策の推進に努めています。

本年度は、継続事業に加えて新たに設定された生産段階の取組を支援する事業に参画することとしましたので、その概要をお知らせして、生産者や管理獣医師の皆様との積極的な取組と関係機関・団体等のご支援・ご協力をお願いします。

1 農場飼養衛生管理強化対策事業

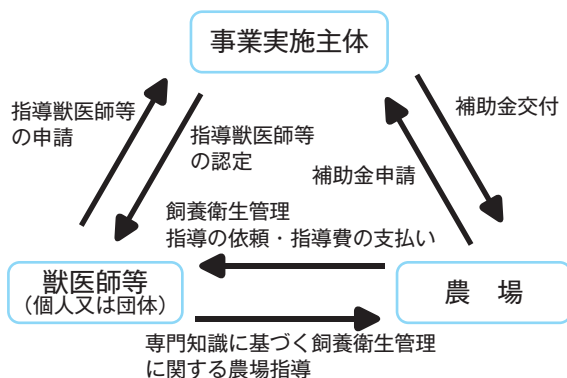
本事業は、家畜生産農場清浄化支援対策事業の拡充メニューとして昨年度から実施されたもので、生産者が自主的に民間獣医師等の専門家による衛生指導を受けるための取組を支援するものです。

具体的には、生産者が「指導獣医師（当協会が認定）」に依頼し、農場の実態に基づく「飼養衛生管理基準」のチェックと改善指導を年2回受けます。生産者は、指導獣医師に指導費を支払い、当協会に補助を申請することにより、指導費の1/2以内（上限：1農場1回2,700円）を限度に補助金を受けることができます。

昨年度は、初めての取組であったことから、酪農7農場、養豚17農場（指導獣医師4名）と少数でしたが、今後は、生産者が自分の経営に必要な指導には対価を払う、獣医師は有益な指導を行った報酬を受けるといった関係が、家畜自衛防疫の一つのあり方として定着していくことが望まれます。

本年度は多くの取り組みを支援できるよう努めていきます。

【事業の仕組み】



2 地域自衛防疫強化特別対策事業

家畜伝染病予防法の改正を踏まえ、国家防疫の観点から家畜保健衛生所等を中心とした防疫措置の強化が図られてきていますが、これと整合した自衛防疫の強化が不可欠です。

本事業は、生産者自らが関係技術者及び指導機関と共通認識のもとで地域ぐるみの初動防疫活動等に当たることができるように支援し、地域自衛防疫体制の再構築を推進するための新事業です。

(1) 早期緊急自衛防疫対策の推進

地域での初動防疫活動が有効に機能する体制の整備推進を行うため、県内2地区で時期、場所を設定し、必要資材等を支援して生産者段階での防疫演習を実施します。

(2) 特定疾病拡大防止支援対策

地域で多発傾向にある牛白血病の拡大防止の具体的な衛生管理対策（初乳加温と防虫ネット等の活用）を必要資材等を支援してモデル農場1か所で実施します。

3 農場HACCP認証普及推進支援対策事業

当協会は、新潟県の事業と連携し、HACCPの考え方に基づく飼養管理を導入して一定の基準をクリアした農場を「畜産安心ブランド生産農場」として認定しており、県内の約4割の農場が認定を受けています。農林水産省も農場HACCPの普及定着を推進するため、平成21年8月、「農場HACCP認証基準」を公表し、これに基づき、（公社）中央畜産会が中心となって認証制度が開始されています。

本事業は、定期的な農場指導により、現地での必要書類の作成や検証等のシステム運営についての助言・指導を行い、農場HACCPシステムの効率的な構築への取組を支援して、地域の中核となる農場を育成することで農場HACCP認証の普及を図る新事業です（県内3農場を対象）。

全国に先駆けてHACCP方式に取り組んできた県内農場もぜひステップ・アップしていただくことを期待しています。

平成24年度コンサル実施結果の概要と 配合飼料価格の高騰に対応した生産コスト低減対策について

1 平成24年度コンサル実施結果の概要

平成24年度のコンサルは、「総合指導」の他3つの指導区分により合計40戸実施しました。そのうち、平成23年度から継続して実施した経営体24戸の実施結果と技術上の課題について紹介します。

(1) 酪農経営（継続指導7戸の実績）

○ 今後改善すべき課題

項目	単位	指標値	平成23年	平成24年	増減
経産牛1頭当たり乳量	kg	9,300以上	9,219	8,906	▲ 313
生乳1kg当たり販売乳価	円	—	117.48	117.00	▲ 0.48
平均分娩間隔	月	13.5以内	15.8	15.9	0.1
経産牛処分率	%	—	33.4	36.5	3.1
平均体細胞数	万個/ml	16以下	29.3	24.1	▲ 5.2

分娩間隔が15.9か月と長いことから、暑熱対策の徹底、繁殖障害牛の早期治療の実施、必要養分量に見合った飼料の適正給与等が必要

(2) 和牛繁殖経営（継続指導2戸の実績）

○ 今後改善すべき課題

項目	単位	指標値	平成23年	平成24年	増減
雌子牛販売価格	円	—	333,179	377,563	44,384
雄子牛販売価格	円	—	446,696	491,925	45,229
平均分娩間隔	月	12以内	12.0	12.3	0.3
雌子牛日齢体重	kg	0.96以上	0.93	0.98	0.05
雄子牛日齢体重	kg	1.07以上	1.04	1.05	0.01

分娩間隔が12.3か月と長いことから、発情行動の観察強化等により分娩間隔の短縮を図ることが必要

(3) 和牛肥育経営（継続指導11戸の実績）

○ 今後改善すべき課題

項目	単位	指標値	平成23年	平成24年	増減
枝肉1kg当たり販売価格	円	—	1,888	1,910	22
枝肉1kg当たり素牛費	円	—	814	822	8
去勢牛枝肉重量	kg	470以上	493	495	2
去勢牛1日当たり増体量	kg	0.78以上	0.81	0.81	0
事故率	%	2以下	1.4	1.4	0
枝肉格付4等級以上率	%	70以上	71.5	78.1	6.6

去勢牛1日当たり増体量が指標値以下の経営が5戸、事故率が指標値以上の経営が3戸あったことから、基本的な飼養管理と衛生管理の徹底が必要

(4) 養豚経営（継続指導4戸の実績）

○ 今後改善すべき課題

項目	単位	指標値	平成23年	平成24年	増減
枝肉1kg当たり販売価格	円	—	453	424	▲ 29
年間換算離乳子豚頭数	頭	23以上	22.3	22.9	0.6
1日当たり増体量	g	670以上	661	662	1
肉豚事故率	%	3以下	8.3	9.4	1.1
枝肉上物率	%	60以上	51.6	49.7	▲ 1.9

肉豚事故率が9.4%と高いことから、衛生管理の徹底と疾病対策の強化が必要

2 配合飼料価格高騰に対応した生産コスト低減対策

当協会では、昨今の配合飼料価格等の高騰に対応して多様な工夫や対策を行い、生産性の向上に努めている経営体の取組を「緊急課題対応型指導」により調査してきました。

その取組内容のうち配合飼料の生産コスト低減に関する優良な3実践例を紹介します。

酪農経営の実践例 (飼料用米の利用)



飼料用米の破碎とトランスバッグでの購入

取組内容

- ・ 地域の酪農経営5戸で設立した自給飼料生産組合で、平成24年に飼料用米破碎機を導入し、地域の耕種農家が生産した飼料用米を配合飼料の約半額の30円(kg当たり)で購入して県内で初めて搾乳牛への本格的な給与を開始
- ・ 破碎後の飼料用米をTMRに混合して搾乳牛1日1頭当たり3.5kg(濃厚飼料給与量の1/3)給与

効果

- ・ 飼料用米を混合したTMRの嗜好性は良好で、生産乳量が向上し、さらに年間購入飼料費を200万円節減できた。
- ・ 平成25年は飼料用米生産量が1.4倍に増加する予定であり、給与量の増加によりさらに生産コスト低減が可能

肉用牛経営の実践例 (自給飼料の確保)



共同草地

自給飼料(乾草)

取組内容

- ・ 32haの草地を2戸で共同管理して牧草を収集している他、稲WCS(2.9ha)と稲わら(2.4ha)を収集
- ・ 粗飼料生産に関わる作業機を2戸共同で購入・管理

効果

- ・ 作業機の維持コストを低減することにより、乾草を1kg当たり24.4円と購入飼料の40%程度で確保
- ・ 粗飼料の自給率が90%以上と高位に安定

養豚経営の実践例 (飼料費の低減)



飼料用米

取組内容

- ・ 飼料用米及びせんべいや餅の製造時に発生する食品残さを肉豚用飼料に混合して給与

効果

- ・ 配合飼料を飼料用米や食品残さで代替することにより、肉豚用飼料の1kg当たり単価が前年より5.4円低減
- ・ 離乳から出荷までの1日当たり増体量が向上し、枝肉重量が75.2kgに増大

「平成25年度にいがた和牛推進協議会 事業実施計画」決まる

にいがた和牛推進協議会は、平成25年5月22日に新潟市西区の「全農にいがた県本部ビル」で総会を開催し、平成24年度事業実施報告及び収支決算を承認し、平成25年度事業実施計画を決定しました。

主な事業の内容

1 流通・販売拡大対策

(1) 販売拡大対策

ア 首都圏における需要拡大

大きな情報発信力と購買力のある首都圏において「にいがた和牛」の消費拡大を図るため、表参道・新潟館ネスパスにおいて「にいがた和牛七夕フェア」を実施するほか、新規取扱店の拡大に努める。

イ にいがた和牛プレミアム商品の創出と販売

「にいがた和牛」の首都圏における知名度の向上と単価の底上げを図るため、「プレミアム商品創出検討委員会」を設けて、当該商品の要件、ネーミング等を決定し、新潟県が実施するフェアで販売するとともに、販売促進活動を実施する。

ウ 販売促進資材の作成・提供

会員、取扱指定店等が行う各種イベントで使用する平成25年度指定店ガイドを作成して提供する。

(2) 流通対策

ア 産地証明書・ロゴシールの発行と信頼性確保

「にいがた和牛」の要件を満たす牛の購買者に対して産地証明書等の積極的な入手を促し、その利用状況と管理実態を調査して必要に応じて指導を行う。



(開会の挨拶を行う吉見 副会長)

イ 「にいがた和牛取扱指定店」の登録

会員から推薦を受けた「にいがた和牛取扱指定店」を幹事会の承認を得て登録する。

なお、「にいがた和牛」が県民に広く認知されてきた現状を踏まえて、新たな要領を定める。

2 生産振興対策

(1) 肥育名人の認定

「にいがた和牛」の品質の高位平準化と販売拡大を図るために認定している「にいがた和牛肥育名人」の認定期間が前年度末で終了したことから、優れた生産技術を有する肥育経営者を新たに肥育名人として認定する。

(2) 枝肉共励会の支援等

会員が開催する県域の枝肉共励会で最優秀賞、優秀賞を受賞した経営者やその入賞牛が県内産である場合に素牛生産者を併せて褒賞し、「にいがた和牛」の生産意欲を高める。

さらに、第58回新潟県肥育牛求評共励会出品牛を最高値で落札した買参人に感謝状と記念品を贈呈する。

3 にいがた和牛推進協議会設立十周年記念事業

本年度が、にいがた和牛推進協議会設立十周年の節目に当たることから、11月8日に記念大会を開催して、「にいがた和牛」の一層のブランド確立を推進する。

また、「にいがた和牛」をより多くの消費者に認知してもらうため、親しみやすいキャラクターを公募により制定することとし、記念大会において採用された作品を発表する。

にいがた和牛イメージキャラクター 募集中!!

にいがた和牛推進協議会では、設立十周年を機に、「にいがた和牛イメージキャラクター」を定めることとなりました。

只今、作品を広く募集しております。

応募方法等は、新潟県畜産協会ホームページをご覧ください。

URL <http://niigata.lin.gr.jp>

○ 応募期限：平成25年9月30日



酪農経営

胎内市東牧

緒形 正芳



養豚経営

十日町市中屋敷

平野 菜菜子



『就農9年目を迎えて』

私は就農して今年で9年目になります。

興農館高校を卒業した後、30歳までは酪農以外のいろいろな仕事を経験してから就農しようと考えていましたが、21歳の時に結婚したことを契機として就農し、現在に至っております。

現在は経産牛60頭規模の酪農経営ですが、平成23年に酪農学園大学を卒業し、1年間、北海道で研修していた弟が昨年就農したことから、従業員1名を加えた3名体制で作業を行っております。

振り返ると、就農した当初は、毎日の仕事をこなしていただけでしたが、それから徐々に、少しでもキレイな牛、牛床、機械にすることを目標とし、1頭毎に個体管理を徹底することを心がけ、以前と比べれば、かなり成績は改善してきていると思っています。

就農後まもなく、家畜人工授精師資格を取得しましたが、これまで自分では全く人工授精を行ってきませんでした。

最近、繁殖成績を向上するため、自分で人工授精ができるよう取り組み始め、家畜保健衛生所の先生に指導して頂き、また、担当している獣医師の先生にも話を聞きながら、人工授精技術の向上と受胎率の向上を目指しています。

昨年からは、新発田酪農青年部の代表として、酪農同志会に参加し、青年部、同志会の活動を通じて、様々な経験をすることができ、楽しく勉強をさせてもらっています。

現在、酪農経営の管理は父が行い、妻が経理を担当していますが、これからは自分でも酪農の経営管理ができるよう、父から教えてもらい、また、弟と相談しながら、乳質の向上など様々な経営目標をクリアできるよう頑張っていきたいと考えています。

『諦めない養豚をしたい』

小さい頃から動物が大の苦手な、養豚農家に生まれながら長らく子豚にすら触れなかった私も、今年の10月には養豚業に就いて2年になります。今ではすっかり豚が好きになりましたが、大学の途中までは家業を継ぐ気は全くなかったもので、東京から帰ってきた時は、知識も経験もほとんどないまま養豚の道に入りました。

全くの初心者ということもあり、最初の年はセミナーや講習会に可能な限り参加して、いろいろな勉強をさせてもらいました。母豚の管理や防疫対策などの実践的な養豚知識以外にも同業の若い経営者の方々と知り合いになることで、自分の勉強不足な面や自農場に足りないものを知るきっかけにもなりました。家族だけで仕事をしていると現状に満足しがちになりますが、こうした機会での他の農場の方の話聞くことで、うちの農場は何をするべきかがはっきりし、1頭でも多く出荷するためにはどうしたらいいのかをよく考えるようになりました。

しかし、「1頭でも多く」という気持ちが強まるうちに、やっとの思いで離乳した子豚をどうしても1頭残らず出荷したいという欲深い気持ちになり、治りそうもない病弱な子豚をあの手この手で立ち直らせようとしていると、その子豚に愛着がわいてしまい、無駄な治療や介護を続けてしまうのが、経営者を目指す者としての私の未熟なところでした。

ただ、そうした無駄とも思える治療をする上でも、早々に諦めることはしたくないのです。これは病気の治療に限ったことではなく、通常の作業においても「うちは設備が古いから」とか「時間がないから」という理由で最善を尽くす機会を自分から放り出すことはしたくないと思うからです。

私の養豚人生はまだ始まったばかりで、これから多くの経験を積むと思います。ですが、その経験に縛られすぎて、何かを始めることや一歩先の頑張りを必要とすることに対して二の足を踏むようなことはせず、いつまでも目標に向かって努力していきたいと考えています。

畜産安心ブランド生産農場だより

佐渡市：株式会社 佐渡乳業

(株)佐渡乳業では、関係者の皆さんと協力して「クリーンミルク生産農場認定」の支援に取り組んでまいりました。平成21年度からは、認定農場で生産された生乳を原料とした「トキパック牛乳」の販売を開始いたしました。「トキパック牛乳」は、島内外でご高評を頂き、今年3月には、FOODEX JAPAN2013で開催された「ご当地牛乳グランプリ」において、総合部門で「金賞」並びに個別部門で「パッケージ審査賞」を受賞いたしました。

また、島内生産者の方々の積極的な高品質生乳生産への取り組みにより、佐渡地域の年間平均体細胞数は平成18年の35万個/mlから、平成24年には17万個/mlに低減し、県内でも随一の高品質乳生産地域となっております。

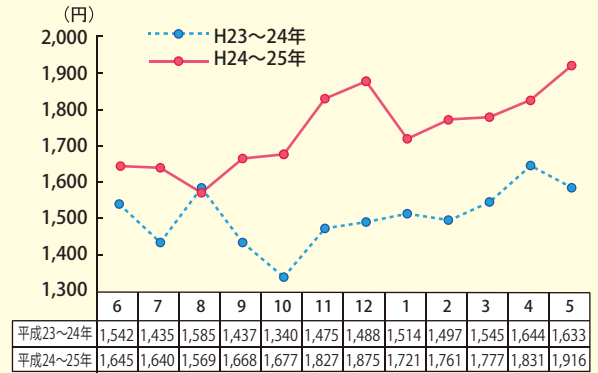
平成24年度には、(株)佐渡乳業に搬入している全ての島内生産者がクリーンミルク生産農場に認定されたことから、本年5月には牛乳パックを、トキをモチーフにしたデザインにリニューアルいたしました。

今後も高品質生乳の生産を支援するとともに、特色乳製品を活かし、佐渡地域振興に貢献してまいります。

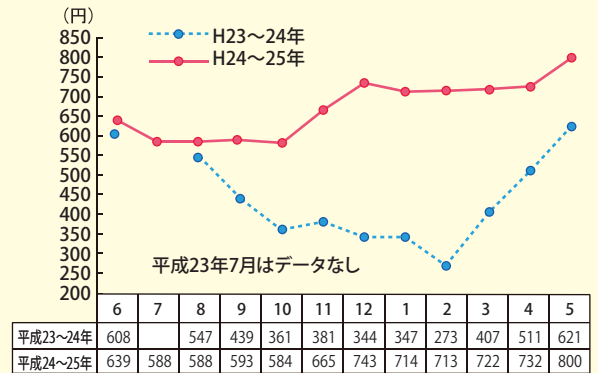


畜産物市況

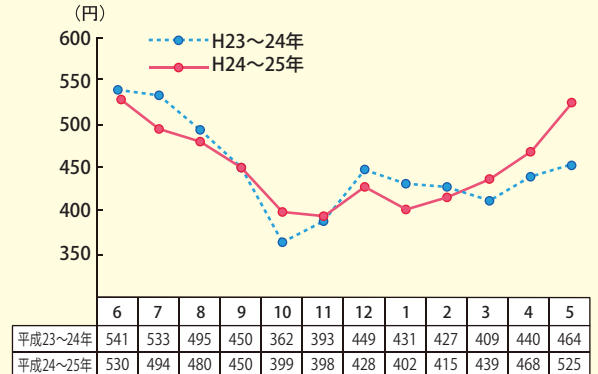
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

先日、国際獣疫事務局から日本が牛海綿状脳症（BSE）清浄国の認定を受けました。平成13年に初めてBSEの国内発生が確認されてから12年目の今、最上位のステータスを獲得したことは、畜産業界の明るいニュースとなりました。

一方で、県内の平成24年度の畜産経営の収益性は、依然として厳しい状況が続いています。本号では、特に配合飼料価格の高騰に対応して、生産コスト低減対策を行っている畜産経営体の取り組みを紹介しました。多くの畜産経営者の一助になればと思います。

本県も梅雨入りを迎え、これから暑い季節がやってきます。暑熱は家畜の生産性の低下につながるほか、熱中症など人の事故の原因にもなります。人、家畜ともに、暑熱には十分にお気をつけください。

(荒井 記)